

じんけん福祉講演会

令和2年2月6日(木)

淡路市ふるさとセンターにおいて、市人教一宮支部主催、一宮民生委員児童委員協議会協力により、じんけん福祉講演会を開催しました。

香川県綾歌郡綾川町で、

日本認知症本人ワーキンググループ会員で「ほつと歓伝え隊」の隊長を務めながら、「育育広場」での取組を続けておられる、志度谷利幸さんらをお迎えし、「認知症の本人が語る!」と題し、ご講演いただきました。



講演会の冒頭では、事業を担当する綾川町役場健康福祉課の川崎さんから、綾川町における認知症地域支援の取組である「介護予防サポーター活動」、そして、高齢者への声かけ・見守り活動「まちかどほつと歓事業（まちかどほつとかん）」について紹介がありました。



質問に答える三井さん



三井さん活動紹介

つづいて、マイクをとった三井雪子さんは、元役場職員で、現在は「育育広場」の代表を務めているとのこと。三井さんは、それまでの経験を生かし、代表としての役割を担う一方で、地元民生委員やボランティアの方々との行政をつなぐ重要なパイプ役を果たされ



ており、三井さんは、「認知症の人にもそうでない人にも誰にもやさしい地域づくりを合言葉に、「認知症となっても住み慣れた地域で楽しくいきがいを持ちながら、安心して暮らし続けるための場づくり」をめざしてできた「育育広場」で、認知症となりながらも地域の中での自分の役割を見いだしている」など、地元で暮らす方々がお互いを支えながら元気に生活を続けている姿を、スライド



志度谷利幸さん

次にマイクを受け取った志度谷さんは、自身が若年性認知症と診断を受けた後も、育育広場での活動を元気に続けておられます。認知症であると診断を受けたときの心情を「最初は信じられなかった」と語り、真剣な表情の中にも時折笑顔を見せながら話す志度谷さん。最後に、「これだけはみなさんに言っておきたい。認知症となってもあきらめるな。自分で自分をいじめたらアカン。」と力強く語り、来場者は、その元気な言葉と姿に惜しみない拍手を送っていました。